



「第 32 回全国豊かな海づくり大会」に EM 研究機構が出席

天皇・皇后両陛下がご臨席される皇室三大行事の一つである「全国豊かな海づくり大会」が、11月17・18日、沖縄県糸満市で開催されました。開催地となった糸満市は、糸満漁協と共同で「全国豊かな海づくり大会」誘致のため、1995年から「南部豊かな海づくり大会」を毎年開催。2004年の第10回大会からはEM研究機構も協賛し、地元入江の浄化活動が開始されました。このEMを用いた環境浄化活動は、2006年から「離島漁業再生支援交付金」の補助事業(申請者:糸満漁協)として継続されています。



両日でのべ 25,000 人の来場があった



悪天候に関わらず両日で 15,000 個の団子が作られた

福島第一原発を巡る最近の話題

原発事故から一年以上経過しましたが、今年10～11月にかけて、福島県や関東地方の下水処理施設から放射性ヨウ素が検出されたとの報告が出ています。放射性ヨウ素は半減期が8日間と短いため、福島第一原発からの放出も疑われます。また、10月23日には1号機原子炉格納容器内の水素濃度を下げるため、圧力抑制室に窒素ガスの注入作業を行っています。上記に加え、福島第一原発は未だ予断を許さない状況であると、多くの科学者が指摘をしております。特に関東以東の皆さま方は、原発の動向に注視しインターネット等で常に最新の情報を入手されますよう、またEM生活を更に徹底されますようお願い申し上げます。

◇◇◇◇◇参考図書◇◇◇◇◇



◆「福島第一原発 真相と展望」、アーニー・ガンダーセン著、集英社新書、735円(税込)
全米で原子炉の設計・建設・運用・廃炉に携わった原子力技術者。事故の解析、今後起こりうるリスク(特に三号・四号機)、事故収束までに経なければいけないステップなど素人にも分かりやすい文章で説明されています。

「東京の友人には四号機が崩れれば即座に逃げるよう助言しています。それは科学にとって未知の世界です。」本文中より



◆「内部被曝の真実」、児玉龍彦著、幻冬舎新書、756円(税込)
東京大学先端科学技術研究センター教授、東京大学アイソトープ総合センター長併任。
チェルノブイリ原発事故による健康被害の実態や、福島原発事故によりこれから懸念される健康被害について、解説されています。

◆「この国は原発事故から何を学んだのか」、小出裕章著、幻冬舎ルネッサンス新書、838円(税込)

上記書籍の著者それぞれのインタビューは、YouTube などでもご覧いただけます。福島第一原発四号機の使用済核燃料プールの動向には特に注視が必要ですが、その理由は上記の「福島第一原発 真相と展望」、もしくは小出裕章助教のインタビューをご覧ください。

◇◇◇◇◇ ご案内 ◇◇◇◇◇

第14回(平成24年度)のU-ネット通常総会を下記の通り開催いたします。なお、総会議案ならびに委任状は1月下旬に別途郵送いたします。

【日 時】 平成 25 年 2 月 23 日(土) 13:00～17:30

【場 所】 芝公園フロントタワー2F(東京都港区芝公園 2-6-3) ※昨年と同じ会場です